

古代 山城 サミット



山鹿・菊池大会

開催内容

1日目 菊池ステージ
10月7日(金)

会場

菊池市：歴史公園鞠智城・温故創生館
山鹿市菊鹿町米原443-1 TEL.0968-48-3178
菊池市文化会館
熊本県菊池市亘32番地 TEL.0968-24-1101
菊池笹乃家
菊池市隈府1090-1 TEL.0968-25-4000

内容

12:30 受付(菊池市文化会館)
13:00 オリエンテーション(菊池市文化会館大ホール)
13:30 烽火リレー(歴史公園鞠智城)
15:00 「歴史公園鞠智城」見学会
16:30 自治体首長会議(菊池市文化会館小ホール)
〔議題〕古代山城等の歴史遺産を活用したまちづくりについて
古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動について
古代山城サミット山鹿・菊池大会宣言(案)について
第3回(平成24年度)古代山城サミットの開催自治体について
19:00 レセプション(菊池笹乃家 コンベンションホール「芙蓉」)

2日目 山鹿ステージ
10月8日(土)

会場

山鹿市：八千代座 山鹿市山鹿1499番地 TEL.0968-44-4004

内容

8:30 受付(八千代座)
8:55 開会宣言
9:00 オープニングセレモニー
9:10 開会行事
①開会あいさつ
②主催市長あいさつ
③来賓あいさつ
9:25 古代山城サミット
(自治体首長会議)の報告会
①古代山城サミット所在自治体の紹介
②古代山城サミット宣言の採択
9:50 シンポジウム
～古代山城の保存と
活用をめざして～

【第1部】学習発表

山鹿市立城北小学校6年生「鞠智城跡の魅力を学んだよ」

【第2部】講演

- ①鞠智城跡の最新調査成果：熊本県教育委員会
②講演：西谷正氏(九州歴史資料館館長)
「ここまで分かった鞠智城」
③講演：田中哲雄氏(元 東北芸術工科大学教授)
「歴史公園としての古代山城の整備」

【第3部】パネルディスカッション

司会者：佐藤 信氏(東京大学大学院教授)
パネラー：西谷 正氏(九州歴史資料館館長)
田中哲雄氏(元 東北芸術工科大学教授)

12:00 伝統文化披露
12:15 次期開催市長あいさつ
12:20 閉会あいさつ

ごあいさつ

第2回「古代山城サミット 山鹿・菊池大会」にご参加いただきありがとうございます。今回のサミットは、古代山城「鞠智城(きくちじょう)」が所在する山鹿市と菊池市が合同で開催いたしますが、自治体の枠を超えた両市の連携力を発揮した大会にしたいと考えております。

2日間にわたるサミットでは、古代山城を活用したまちづくりの取組みや学習活動についての意見交換会をはじめ、古代の重要な情報伝達手段であった「烽火」を実験的に連続して再現する「烽火リレー」のほか、「鞠智城」をモデルにした古代山城の保存と活用に関するシンポジウム、並びに参加自治体の郷土芸能披露が行われます。

本サミットにご参加の自治体のネットワークが強化されることで、相互の連携と交流、古代山城に対する国民の認識が深まれば、古代山城という歴史遺産を活用したまちづくりができる自治体にとっては、大きなアドバンテージになると思います。また、1300余年の昔、古代日本が直面した国家的危機に際して、自然の地形を活かしつつ、当時最高の土木・建築技術を駆使して西日本各地に築城された古代山城の歴史的意義と価値が現代において再評価され、新たなまちづくりのフェーズとして地域活性化の一翼を担おうとしていることに大いなる可能性を実感しているところでございまして、この歴史的なご縁が今後も継続していくことを切望しております。

最後に、本サミットの開催にあたり、関係者の皆さま方には多大なるご支援とご協力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、ご参加いただいた全ての皆さまにとって、思い出深く、有意義な大会となりますことを祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

平成23年10月7日

古代山城サミット 山鹿・菊池大会実行委員会会長(山鹿市長)
中嶋 憲正



ごあいさつ

本日から2日間、第2回「古代山城サミット山鹿・菊池大会」に、古代山城を有する全国の自治体の皆さまをお迎えし、文化財を活かしたまちづくりについて意見を交える機会に恵まれましたことに、ただただ感謝いたしますとともに心から歓迎申し上げます。

さて、東日本大震災の爪あとに、今もなお多くの方々が険しい環境の中で厳しい生活を強いられている状況が続いており、犠牲になられた皆様のご供養と、一日も早い復興を願うものでございます。津波にのみ込まれたものの中には、人の命だけでなく地域に根付き、人々の生活の一部となっていたであろう、歴史的な遺産や地域の文化もあったのではないのでしょうか。そのようなことに思いを廻らせる中に、今回のサミットが山鹿市と菊池市の協同により開催され、663年の白村江の戦い以降に次々と築かれた山城を皆さまとともに活用し、守りつなげていくことについて使命感さえも感じるものでございます。

山鹿市と菊池市は熊本県の北部に位置し、古くから菊池川流域を中心に交流を続けており、ともに古い歴史と文化を持った繋がり深いまちでございます。そのことを証明するかのように鞠智城はその両市に渡って築かれておりました。

本日は、ここにお集まりの皆さまが、それぞれの山城を軸に地域の自慢となる自然や文化をもとに、活発な討議を交わし地域の振興と連帯を深めることができることをお願いいたします。

むすびに、本サミットの開催に当たり、ご尽力いただきました関係者の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、本日まで参加いただきました皆さまにとって意義のある大会となりますことを祈念申し上げご挨拶といたします。

平成23年10月7日

古代山城サミット 山鹿・菊池大会実行委員会副会長(菊池市長)
福村 三男



第2回
古代山城サミット
山鹿・菊池大会
宣言(案)

千年以上に及ぶ悠久の時を超え、古代山城に抱かれて暮らす人々が集い、交流を果たした昨年の第1回大会に続き、今日、再び九州、中国、四国の7県から22の自治体が、ここ山鹿・菊池の地で再会し、「第2回古代山城サミット山鹿・菊池大会」を開催しました。

この春、我が国は未曾有の大災害に見舞われました。災害の爪あとは深く、多くの人々が、未だに不自由な暮らしを強いられています。復興への道のは険しいと言わざるを得ません。けれども、私たちには、幾度となく困難を克服し、現在の繁栄を築き上げた輝かしい歴史があります。

遙か遠い昔に、我が国の歴史始まって以来の大きな困難に立ち向かった先人たち。古代山城を築き、国を護り、新たな国づくりに邁進した、その想いと叡智を、いまこそ、未来に向けた国づくり、地域づくりに活かす時です。

改めて古代山城を見つめ、静かに心を研ぎ澄ますと、大きな困難を乗り越えようとしている私たちへの、古代の人々からの確かなメッセージを感じることができます。古代山城は、現代に暮らす私たちにとって希望と誇りの拠り所とも言えるでしょう。

私たちは、前回、そして今回のサミットを通じて育んだ地域と地域、人と人との強い絆を活かし、共に手を携えながら、古代山城を国民共通の貴重な歴史財産として守り、永く伝えていきます。

そして、山城人(やましろびと)としての誇りと責任を胸に、先人たちの叡智や、古代山城に込められた願いを多くの人々の心に届けます。

また、歴史遺産を活用した学習活動などの推進を通じて、未来を担う人づくり、個性豊かな地域づくりに寄与していくことを、ここに宣言します。

平成23年10月7日

第2回 古代山城サミット 参加者一同

全国の古代山城



※ ()は所在地不明の朝鮮式山城

烽火リレー【7日(金)】

大宰府政庁～鞠智城をつなぐ! 古代の通信手段「烽火」を再現!



8月に実施したイベントでは、大宰府政庁跡から鞠智城まで見事に烽火によるリレーが成功した。写真は、最終中継ポイント米野山であがった煙を確認して点火された鞠智城の烽火

「日本書紀」によると、古代、九州には唐と新羅の侵略に備え、大宰府政庁と各山城などを結ぶ「烽火」(のろし)による通信網があったとされている。今回の「古代山城サミット 山鹿・菊池大会」では、その烽火を再現、大宰府と鞠智城間を古代と同じ方法で結ぶ「烽火リレー」を実施する。烽火は、狼煙とも書き、その由来は、煙が多くでる狼の糞を燃料にしたことがあったからとされる。また狼の糞を加えると、煙が直上したとも言われている。

今回の烽火リレーは、対馬(長崎県)の防衛隊が唐と新羅[しらぎ]の侵攻船団を発見、大宰府に急を知らせる烽火が届き、鞠智城まで知らせたという古代さながらの想定。大宰府政庁跡から、大野城跡、基肄[きい]城跡など、福岡、佐賀、熊本の3県にまたがる約100キロの距離を、1～13キロ離れた12カ所の中継地で烽火や合図の旗でつないでいく。大宰府から鞠智城まで約60分で到達する予定。

烽火リレーポイント



タイムスケジュール

- | | |
|------------------|------------------|
| ① 大宰府政庁跡 [14:00] | ⑧ 清水小学校 [14:31] |
| ↓ | ↓ |
| ② 大野城跡 [14:05] | ⑨ 清水山 [14:32] |
| ↓ | ↓ |
| ③ 基肄城跡 [14:10] | ⑩ 御牧山 [14:35] |
| ↓ | ↓ |
| ④ 宝満川堤防 [14:15] | ⑪ セキアヒルズ [14:45] |
| ↓ | ↓ |
| ⑤ 朝日山 [14:20] | ⑫ 二城山 [14:50] |
| ↓ | ↓ |
| ⑥ 十連寺公園 [14:25] | ⑬ 米野山 [14:55] |
| ↓ | ↓ |
| ⑦ 女山神籠石 [14:30] | ⑭ 鞠智城 [15:00] |

古代山城サミット 内容②

シンポジウム【8日(土)】

古代山城の 保存と活用をめざして

開催地、山鹿市と菊池市にまたがる鞠智城に関する最新の調査報告をはじめ、地元の小学校の児童たちの古代山城を活用した学習活動の報告、古代山城の歴史公園としての整備の在り方等についての講演、さらに古代山城を活かした地域づくりについてのパネルディスカッションなどを行います。

学習発表「鞠智城跡の魅力を学んだよ」山鹿市立城北小学校6年生

講演「鞠智城跡の最新調査結果」熊本県教育委員会

「ここまで分かった鞠智城」九州歴史資料館館長 西谷 正氏

「歴史公園としての古代山城の整備」元 東北芸術工科大学教授 田中哲雄氏

パネルディスカッション

- コーディネーター／東京大学大学院教授 佐藤 信氏
- パネラー／西谷 正氏、田中哲雄氏



1
5



2



3



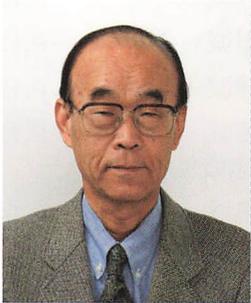
4

プロフィール



佐藤 信 / さとう まこと
 <コーディネーター>

東京大学文学部国史学科卒業。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。奈良国立文化財研究所(平城宮跡発掘調査部)研究員、東京大学文学部助教授などを経て、1996年より東京大学大学院人文社会系研究科教授。専門は、日本古代史。文学博士。『日本古代の宮都と木簡』吉川弘文館1997、『古代の地方官衙と社会』山川出版社2007など、著書・論文多数。平成23年8月から鞠智城跡保存整備検討委員会副委員長。



西谷 正 / にしたに ただし
 <講師・パネラー>

京都大学大学院修士課程修了。奈良国立文化財研究所、福岡県教育委員会を経て、九州大学助教授・教授。平城宮跡・九州縦貫道予定地内遺跡などの発掘調査に従事。現在、九州歴史資料館館長、伊都国歴史博物館名誉館長、九州大学名誉教授。『韓半島考古学論叢』すずさわ書店2002、『東アジアの巨大古墳』(共著)大和書房2008など、著書・論文多数。

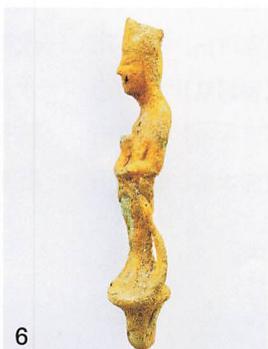


田中哲雄 / たなか てつお
 <講師・パネラー>

京都大学農学部林学科、農学博士。文化庁記念物課整備部門主任調査官を経て、東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授。専門分野は造園学、遺跡整備、遺跡庭園史。主な著書に、「遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度」独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所2008、『歴史考古学辞典』共著 吉川弘文館2007、など、著書・論文多数。平成23年8月から鞠智城跡保存整備検討委員会委員。



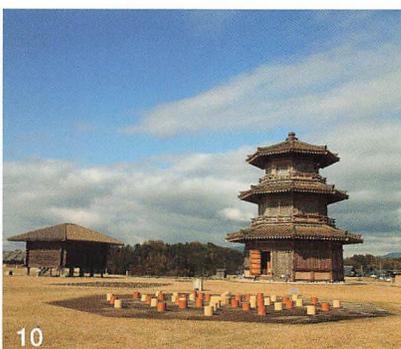
5



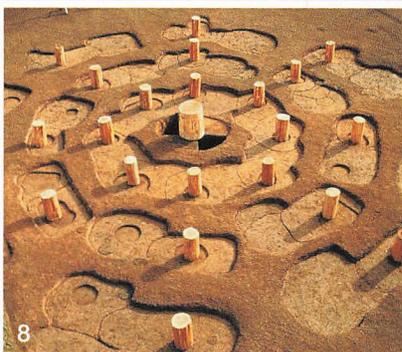
6



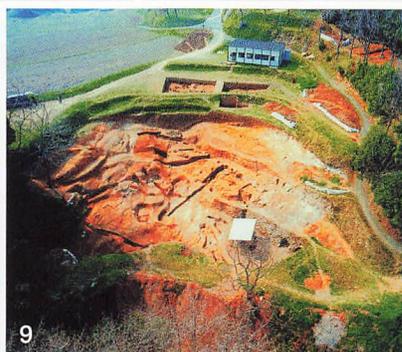
7



10



8



9

1.山鹿市立城北小学校6年生による学習の様子 2.池の尾門 3.遺物／瓦 4.貯水池跡全景 5.百済系菩薩立像正面 6.百済系菩薩立像側面 7.遺物／木簡 8.遺構八角形建物跡 9.深迫門 10.鞠智城全景

参加自治体の 取り組み

【福岡県】太宰府市	大野城	P.08
【福岡県】大野城市	大野城	P.09
【福岡県】宇美町	大野城	P.10
【長崎県】対馬市	金田城	P.11
【佐賀県】基山町	基肄城	P.12
【福岡県】筑紫野市	基肄城 (阿志岐城)	P.13
【香川県】高松市	屋嶋城	P.14
【福岡県】飯塚市	鹿毛馬神籠石	P.15
【福岡県】朝倉市	杷木神籠石	P.16
【福岡県】久留米市	高良山神籠石	P.17
【福岡県】みやま市	女山神籠石	P.18
【福岡県】行橋市	御所ヶ谷神籠石	P.19
【佐賀県】佐賀市	帯隈山神籠石	P.20
【佐賀県】神埼市	帯隈山神籠石	P.21
【佐賀県】武雄市	おつぼ山神籠石	P.22
【山口県】光市	石城山神籠石	P.23
【福岡県】上毛町	唐原山城	P.24
【香川県】坂出市	城山	P.25
【愛媛県】西条市	永納山城	P.26
【愛媛県】今治市	永納山城	P.27
【熊本県】山鹿市	鞠智城	P.28
【熊本県】菊池市	鞠智城	P.29

太宰府市【福岡県】

山城名：大野城
人口：70,557人（平成23年6月末現在）
面積：29.58km²
市の花：梅
木：くす



市の概要

太宰府市は、福岡市の南東約16kmに位置。約1350年前に市の西～北部にかけて水城・大野城が築かれたことを端緒に、西海道総轄、また軍事・外交にも携わった大宰府が設置された。現在、特別史跡3件、国史跡4件をはじめ市域の約15%が史跡指定されている。大宰府史跡の他にも学問の神として著名な太宰府天満宮があり、市内には年間600万人の観光客が訪問。また文教都市としても知られ、約9千人の学生が勉学に勤しんでいる。来年市制30周年を迎え、史跡・緑に恵まれた福岡都市圏の住宅都市として発展を続けている。



1.太宰府市景観・市民遺産会議
2.水城跡学習会 3.文化遺産ボランティア

歴史遺産を活用したまちづくりについて

新たな取り組み

平成22年10月1日に「太宰府の景観と市民遺産を守り育てる条例」を施行。市の歴史的景観を保全し、かつ文化遺産や伝承の保全活動を「太宰府市民遺産」として登録し守

り育てていく取り組みを始めた。

平成23年1月に行われた第1回景観・市民遺産会議では、大野城の登城路とも重なる古道が市民遺産に認定。今年度6～8月に展示会を開催した。

さらに、平成20年11月4日に施行された「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称：歴史まちづくり法）」に基づき、「太宰府市歴史的風致維持向上計画」を策定。昨年、文部科学省、農林水産省、国土交通省の3省に認定申請し、認定を受けた。

今後の取り組み予定

◎ 水城跡築堤1350周年事業

水城跡の再整備に向けて、平成17年度に大野城市・太宰府市・福岡県・九州歴史資料館の4団体が水城跡整備事業推進協議会を設立。水城跡築堤1350周年を迎える平成26年から本格的に整備を開始するにあたって、協議を進めている。市民からも1350年に向けた機運が高まっており、地域一体となった取り組みを目指している。併せて、大野城跡築城1350周年事業も取り組む予定。

歴史遺産や文化に関する国際交流

太宰府市は、古代百済の王都があった大韓民国忠清南道扶余郡扶余邑と姉妹都市締結を行っている。太宰府西小学校も扶余にある百済初等学校と平成元年に姉妹校締結。以来毎年、交流を続けている。

市制30周年を迎える平成24年4月、扶余郡との友好都市締結を予定している。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

史跡地を数多く抱える水城小学校では、6年生1学期の総合学習で、史跡解説員（財）古都大宰府保存協会と市内の史跡地を見てまわり、調べた成果を発表する授業を実施している。このほか、文化財課職員による中学校での出前授業なども実施している。

市民に向けた取り組み

◎ 特別史跡「水城跡」と吉松の歴史を学ぶ会

水城西門が所在する吉松区住民から、水城跡について学習し、来訪者案内ができるようになりたい、という要望があり、平成22年度、文化財課の協力のもと、地元有志が中心となって学習会を月1回のペースで開催した。学習の成果は「水城跡（西地区）周辺歴史の散歩」という地図入り解説シートを作成することで結実した。

◎ 太宰府市文化遺産調査ボランティア

平成20～22年度、文化庁から文化財総合把握モデル事業を受託し、歴史文化基本構想を策定した（太宰府市文化財保存活用計画&太宰府市民遺産活用推進計画）。この時文化遺産調査を行った市民ボランティアが現在も継続的に活動を行っており、文化遺産を調べ、広く伝え、見守る活動を続けている。

◎ 出前講座等

文化財課・市史資料室等の出前講座を随時実施している。市の企画以外にも、歴史同好会、一般のサークル、大学、自治会からの要請がある。

大野城市【福岡県】

山城名：大野城
人口：96,371人（平成23年6月末現在）
面積：26.88km²
市の花：ききょう
木：くろがねもち



市の概要

大野城市は、福岡市の南に位置し、市域は東西約6km、南北約8.5kmで面積は26.88km²。市の中心部の幅は約1kmしかなく、ひょうたん型をしている。東北部には四王寺山や乙金山、南部と南西部には背振山地の牛頸山を中心とする小連山があり、都市部としては貴重な緑がまだまだ残されている。

「大野城」の名称は、白村江（はくすきのえ）の戦いで大敗を喫した日本が、大宰府防衛のために、天智4年（665年）に大野山（今の四王寺山）に築いたわが国最古の朝鮮式山城「大野城」（おおののき）に由来。以来、博多（那の津）と大宰府を結ぶ交通の要地として繁栄してきた。

現在の市域が一つの自治体として発足したのは、明治22年で、当時の人口は、3,855人。昭和47年4月に市制を施行し、以来コミュニティのまちづくりを柱として取り組み、来年4月には市制40周年を迎える。



1.日本最古の山城まつり
2.子ども考古学教室 3.大野城をあるく

歴史遺産を活用したまちづくりについて

実施中の取り組み

大野城市の市名の由来となっている日本最古の山城「大野城」を広く市民に周知し、伝統的なまつりとして引き継いでいく為に鑑賞型の「おおの山城大文字まつり」を実施。具体的には、各中学校による「旗の舞」の演舞、古代山城ネットワークを生かした他市伝統文化の披露。「大野城物語ショー」の実施など。

今後の取り組み予定

◎ 山城楽講（がっこう）の開講

第1回古代山城サミット大野城宣言に基づいた活動。古代山城をはじめとして、ふるさとの文化財を守り、伝え、活かし、その魅力を多くの人の心に届けるため、ともに歴史や文化財を学ぶ講座。受講生で運営委員会を組織してもらい、自主的活動を期待、文化財ボランティアに育成も促す。今年の9月から開講。

◎ 大野城築城1350周年事業

H27年の築城1350年に向けて、関係市町と連携した周年事業の実施を検討中。

歴史遺産や文化に関する国際交流

例年開催している「おおの山城大文字まつり」では、期間中国際交流のブースを設け、各国の食文化を紹介。また、大野城築城当時に食べられていた古代食の試食会を実施。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

市内の小中学校では、大野城跡や水城跡等の文化財をテーマとした「ふるさと学習」の実施。また小学校3年生～中学校3年生までを対象とした「子ども考古学教室」を歴史資料展示室が開催し、毎年テーマを決めて学習。大野城跡や水城跡等の文化財見学などを実施している。

市民に向けた取り組み

◎ 各種出前講座

- ・むかしのくらし講座（明治～昭和30年代ごろの人々のくらしについてのお話・道具の体験）
- ・大野城市の歴史探訪（市内の文化財を歩いてまわり、歴史についての認識を深める）
- ・大野城市今昔物語（市内の歴史や発掘調査の成果についての話）
- ・古代人体験講座（勾玉づくりや古代織りなどを企画）
- ・歴史資料展示室の見学（展示物の説明）

◎ 大野城をあるく

市民を対象とした史跡めぐり事業として「大野城をあるく」を実施。市広報にて参加者を募集し、特別史跡大野城跡を歩き、史跡に直接触れ、体験する。文化財担当職員と解説ボランティアにて案内と解説を行う。平成7年度からの継続事業で、年1回、5月下旬に開催しており、例年40名程度の参加者がある。

宇美町【福岡県】

山城名：大野城
人口：38,114人（平成23年7月1日現在）
面積：30.22km²
町の花：ツクシシャクナゲ
木：くすの木
虫：トンボのふみちゃん
（生涯学習推進のシンボルマーク）



町の概要

宇美町は糟屋郡の最南端に位置し、三群山系と四王寺山塊に囲まれた自然豊かな町であるとともに、福岡市のベッドタウンとして発展し続けている。宇美という地名の由来は2つあり、一つは、「記紀」に記述がある「産みし処を宇美と名づく」という応神天皇ご降誕の地という点があげられている。この応神天皇を祀る宇美八幡宮は、古くから安産信仰の神社として、多くの参拝者で賑わっている。境内には、樹齢2千年ともいわれる樟の巨木2本（国指定天然記念物）をはじめ多くの文化財が点在する。

もう一つは、3世紀の中国の歴史書「魏志倭人伝」に記されている「不彌国＝ふみこく」に由来するというものである。町内にある光正寺古墳（国指定史跡）がその根拠であり、発掘調査で出土した土器の分析から、邪馬台国の時代に近いものであることがわかり、これにより光正寺古墳は、不彌国王の墓ではないかと注目を集めている。国指定特別史跡大野城跡は、大野城市、太宰府市と町界を接する四王寺山にあり、山城を形成する土塁の内側の大半は、宇美町が管理している。



宇美町少年の翼

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

- ◎ **各種歴史講座**
町主催の各種講座で、史跡めぐりなどを実施している。
- ◎ **日本名城100選スタンプラリー**
日本名城100選スタンプラリー事業で、本町のスタンプを大野城跡内（県民の森センター）に設置。多くのラリー参加者が利用している。

新たな取り組み

- ◎ **町内史跡めぐり**
町民を対象に毎年四王寺山を散策し、大野城跡の史跡や33体石仏めぐりを行っている。

歴史遺産や文化に関する国際交流

- ◎ **宇美町少年の翼**
宇美町所在の国指定特別史跡大野城跡の築城の由縁から、旧百済の都にあたる大韓民国扶餘郡教育庁と1986年からの交流を行っている。小・中学生との交歓交流事業「宇美町少年の翼」を実施し、現地の子どもたちや教育関係者との交流を継続。相互の友情を深めながら国際的視野を広めると共に、歴史研修や団体活動における規範意識の醸成、団員相互の連帯を確立し、今後の地域、団体活動に役立てることを目的に実施している。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

- ◎ **宇美小学校**
宇美小学校の生徒（4・5・6年生）を対象に、文化財担当職員がゲストティーチャーとして、年10回、郷土の歴史を学ぶ授業を実施している。その中で、特別史跡大野城跡の重要性と、城跡の大半を宇美町が管理していることを説明している。一年間の学習の成果を、宇美小まつりで研究発表している。
- ◎ **チャレンジクラブ**
年間を通して、町内の小学校4年～6年生対象にした各種体験教室を行っている。その中で、「宇美町の宝」として特別史跡大野城跡を町の文化財担当者の案内で、親子史跡めぐりを実施している。

市民に向けた取り組み

- ◎ **歴史民俗資料館ホームページ**
歴史民俗資料館のホームページに、町内の遺跡や出土遺物を公開し、町内外へ歴史資産のアピールを行っている。同時に、歴史民俗資料館への来館を促進することで多くの住民への歴史学習の機会を創出している。
- ◎ **町広報で歴史遺産について紹介**
町広報誌で遺跡等を紹介し、住民に向けて町の歴史遺産の周知を行っている。

対馬市【長崎県】

山城名：金田城
人口：34,924人（平成23年7月末現在）
面積：708.5km²
市の花：ゲンカイツツジ
木：ヒトツバタゴ
鳥：コウライキジ



市の概要

対馬市は平成16年3月1日に6町（厳原町、美津島町、豊玉町、峰町、上県町、上対馬町）がひとつになって誕生した。島の89%は山林で、標高200m～300mの山々が海岸まで続き、場所によっては高さ100mの断崖絶壁もあり、勇壮な自然を目にすることができる。中央部の浅茅湾（あそうわん）は対馬を代表する景勝地である。大小幾つもの入江と島々が複雑に入り組んだリアス式海岸で構成され、壱岐対馬国定公園に指定されている。国の天然記念物のツシヤママネコをはじめ、対馬でしか見ることのできない生物や、朝鮮半島などの大陸系の動植物が多く生息している。

対馬は、日本の中で朝鮮半島に最も近いという地理的条件から、大陸からの石器文化、青銅器文化、稲作、仏教、漢字などを伝える日本の窓口であった。また、朝鮮半島との間では古くから貿易などの交流が盛んで、この活発な交流から、数多くの書物、仏像、建造物、朝鮮式山城の金田城跡や古墳などの文化財が残っている。



1.シーカヤック風景
2.金田城探訪会



歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎ 対馬観光ガイドの会「やんこも」

「やんこも」は、プロの観光ガイドや教職員OBなどが中心になって結成された対馬の観光ガイドの会。城下町散策やトレッキング（軽登山）のガイド事業を行っている。トレッキングコース（金田城含む）、城下町散策コースなど悠久の歴史にふれる各種コース設定がある。

◎ 対馬エコツアー、対馬カヤックス

金田城は、対馬の中央に広がる浅茅湾の南西に位置している。複雑な入り江と無数の島々が織りなすこの湾で、シーカヤックを操り、海上から金田城を堪能できるのが「対馬エコツアー」、「対馬カヤックス」。このツアーでは、観光客や市民が、金田城の石塁を眺め、上陸し、石垣を間近に見て古代の歴史を肌で感じることができる。

新たな取り組み

◎ 金田城探訪会

金田城について深く知ってもらうための「金田城探訪会」を実施。現地でのこれまでの発掘調査の成果、現在までの整備内容、今後の計画について説明。市民45名が参加した。

◎ 文化財シンポジウム「対馬の古代を探る」

日本書紀に記された金田城の築城（667）と国内初の銀の産出（674）、前後して築かれた矢立山古墳群、サイノヤマ古墳、保床山古墳など、謎が

多い対馬の古代を探るシンポジウム。墳丘を持った古墳の出現は当時人々にどのような影響を与えたのか。築造に携わった人々、被葬者はどんな人なのか？ これまで蓄積された文献資料、考古学研究、発掘調査成果を基に各分野の専門家を招き、シンポジウムを開催（10月1～2日）。

今後の取り組み予定

◎ 史跡清掃ボランティアの組織化

市内に点在する文化財を地元住民の手で守るための組織を確立する。活動内容は草取り、ごみ拾い、案内板清掃などを予定。市民に文化財に愛着を持ち、郷土の財産を大切にす意識を持ってもらうことが狙い。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

市内の中学校の「総合的な学習の時間」に金田城の案内、説明を実施しているほか、小学校も含めた市内の学校で資料館の説明・案内を実施している。

また、小学校の学級レクで児童と保護者を金田城へ案内している。

市民に向けた取り組み

「文化の日」に金田城遺跡見学会を予定。

基山町【佐賀県】

山城名：基肆(椽)城
人口：17,806人（平成23年6月末現在）
面積：22.12km²
町の花：つつじ
木：つつじ



町の概要

基山町は、佐賀県の東端に位置し、福岡県（筑紫野市・小郡市）、鳥栖市に隣接。町域では、地理的な交通上の利便性により古くから古代官道や長崎街道などの主要道路が通り、現在も国道3号線、JR鹿児島線、九州自動車道が縦貫するなど、交通要衝の地としての歴史を経るとともに、様々な文化との交流の中で、特色ある文化を育みながら今日に至っている。

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎ 基山町史編さん事業成果展「きやま」展（H22.11）

町内歴史団体との共催で、基山（きざん）を主なテーマとした企画展示と基肆城跡の史跡見学会等を実施した。展示期間中は、展示室内に町内の一地区を対象に寄せ書きコーナーを設け、地区遺産等の再認識も行った。

◎ 基肆城跡シンポジウム（H23.1）

基肆城跡水門石垣保存修理事業に伴い、同史跡に対する町民等の理解の促進と今後の保存活用等に関する課題を提起した。

実施中の取り組み

◎ 水門石垣保存修理事業

基肆城跡の谷部に長さ26m、高さ8.5m、上部の幅3.3mほどの石塁が現存。石塁の一部には水門跡があり、以前は南門跡もあったとされている。

本史跡の南側入口に位置する主要遺構で、現在崩壊部分等を対象に保存修理を行っている。

今後の取り組み予定

◎ 基肆城跡保存整備事業

本町のシンボルとして位置付けられている基山（きざん）は、草スキーや登山客が多く訪れているが、特別史跡基肆（椽）城跡という優れた歴史遺産も含んでいることから、基山の持つ自然・観光・歴史等の資源を一体的に考えて、町民憩いの場として活用を検討する。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

町内に受け継がれてきた伝統芸能について、その保存継承活動への啓発を目的として、主な芸能を紹介したクियाフォルダーを町内小学校児童全員に配布した。

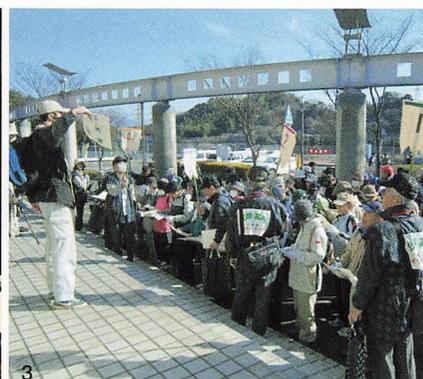
市民に向けた取り組み

◎ クロスロード文化研究会活動

クロスロード文化研究会は、隣接する2市1町の教育委員会と各市町に所在する歴史団体により構成されたもので、県境や行政枠を超えた地域としての郷土研究を通して、一般市町民に対する講演会や歴史散歩等の行事を実施している。

◎ パンフレット・ホームページ等による紹介

町作成のパンフレットで、主要な遺構を紹介しているほか、ホームページ内でも紹介記事を掲載。出前講座等も実施し、町内外の住民への周知を図っている。



1.基肆城水門跡 2.基肆城跡シンポジウム 3.クロスロード文化研究会歴史散歩

筑紫野市【福岡県】

山城名：基肆城、阿志岐城
人口：100,730人（平成23年8月31日現在）
面積：87.78km²
市の花：サルビア
木：椿



市の概要

福岡県の中央部、やや西よりに位置する筑紫野市。東西15.6キロメートル、南北14.1キロメートルに広がる市形は、蝶が羽を広げた姿に似ている。西が背振山系、東が三郡山系の一部をそれぞれ形成。平地は市域中央部に広がる。中央部には平坦地ながらも分水嶺を抱え、御笠川・那珂川水系は北流し博多湾へ、宝満川水系は南流し有明海へ。

交通条件地勢上の特性も影響し、筑紫野市の主要交通体系は市域中央部に南北方向のものが集束する形態を取っており、国道3号やJR、西鉄の鉄道路線などが広域交通体系上の中核的役割を果たしている。鉄道は二日市・福岡間を12分から30分程度で結び、道路交通は九州自動車道筑紫野インターチェンジが設置されている。

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎ 筑後川流域装飾古墳同時公開

直径約35メートルの装飾壁画を持つ6世紀後半の円墳、五郎山古墳は、築造された当初の姿に墳丘を復元整備しており、本物の石室内部を観察室からのぞくことができる。赤、緑、黒の三色を用いた人物、動物、家など多くの具象画で構成されている壁画を再現した実物大の石室模型があって、羨道（せんどう）（遺体を安置した部屋への通路）が開き、内部が見学し易くなっている。この「五郎山古墳」を多くの人に知ってもらうために、筑後川流域に所在する他の装飾古墳も併せて公開を一斉に行った。

新しい取り組み

◎ 長崎街道開通400年記念事業（夢むらさきクロスロード400事業）

平成23年に山家宿創設400年、平成24年には長崎街道開通400年を迎えるとともに市制40周年を迎えるにあたり、平成22年に事業実行委員会を設置。地域で行われているイベントと連携し、歴史や文化を活用したまちづくりの事業を展開している。

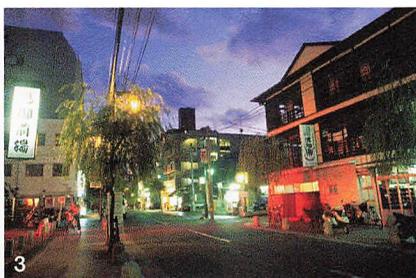
これを機に「文化の風が吹くまちちくしの」をテーマにした地域づくりを行っている。

◎ 阿志岐山城跡保存整備

平成11年に、民間の研究者によって発見された阿志岐城跡の保存活用についての事業を予定。平成23年9月21日国の史跡指定を受けた。

◎ 基肆城指定地拡大

佐賀県基山町と本市にまたがっている特別史跡基肆城の指定範囲を見直し、新たに指定範囲を拡大するための準備を行っている。



1.阿志岐山城跡第12トレンチ列石検出状態（正面から）
2.阿志岐山城跡第3水門全景 3.二日市温泉の夜景 4.武蔵寺の藤

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

市民に向けた取り組み

◎ ホームページで文化財紹介

「ちくしの散歩」のタイトルで。指定文化財その他市内在所の遺跡、文化財等を紹介。

高松市【香川県】

山城名：屋嶋城
人口：419,884人（平成23年8月1日現在）
面積：375.09km²
市の花：つつじ
木：黒松



市の概要

高松市は、四国の北東部、香川県のほぼ中央部に位置する香川県の県庁所在地。明治23年市制をしき、全国で40番目に誕生。その後、明治43年には、岡山県の宇野と高松を結ぶ鉄道連絡船（宇高連絡船）の就航により、本州と四国を結ぶ交通の要衝・四国の玄関口となり、さらに周辺町村の編入による市域の拡大により、近代化への基礎が固まった。

地勢は、東に屋島、八栗山、西に五色台を擁し、南部に讃岐山脈を控え、なだらかに北に向かって傾斜し、広々とした讃岐平野が広がり、紫雲山を背景に市街地が海岸近くまで続いている。

北は、海の国立公園の瀬戸内海に面し、市街地東部には、源平合戦の古戦場で有名な屋島が瀬戸内海に突き出し、海上4kmには女木島、男木島を始めとする島々が点在し、自然環境に富み、風光は極めて明媚。



古代山城日韓シンポジウムの様子

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎ 国分寺史跡まつり

特別史跡讃岐国分寺跡を郷土の宝として保存し伝えていくことを目的に開催。

◎ 歴史ウォーク 「歩き・み・ふれる歴史の道」

屋嶋および源平合戦に関する伝承史跡が多く残る地区などを、歴史・文化遺産を説明しながら歩く。

◎ 備讃瀬戸古代山城シンポジウム

屋嶋城をはじめ備讃瀬戸を挟んで所在する4箇所の古代山城をテーマにしたシンポジウムを平成21年に開催。

◎ ふるさと探訪等

年10回にわたって史跡や寺社等の市内に残る歴史・文化遺産を歩いて訪ねる。

新たな取り組み

◎ 古代山城日韓シンポジウム・屋嶋城跡見学会

瀬戸内国際芸術祭2010連携事業として、近年、構造の解明が進む屋嶋城跡は国内外の古代山城の中でどのような位置付けが行えるのか。韓国古代山城研究の第一人者である忠北大学校教授車勇杰氏に基調講演者として、韓国古代山城研究の最新情報を講演いただいた。この他、国内一線級の研究者をパネリストとして招き、シンポジウムを開催した。

翌日は、基調講演者・パネリストの解説を交えた屋嶋城跡見学会を実施した。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

親子ともどもが昔の人々の生活に触れて学ぶ「親子文化財教室」を年2回、長期休暇中（夏・冬）に実施し、風土、歴史、時代が生んだ尊い遺産である文化財への愛護の気持ちを深める活動を行っている。

また、市内には国の特別史跡・史跡（讃岐国分寺跡・讃岐国分尼寺跡・高松城跡・屋島・石清尾山古墳群等）が存在しているため、地元の小・中学校の校外学習の場として活用、校外学習の導入部分で文化財専門職員が講師として説明を行っている。

市民に向けた取り組み

◎ 観光ボランティアによるガイド

毎週土曜日・日曜日の午前10時から午後3時（冬季・夏季休業あり）の間に屋島山上、高松城跡（玉藻公園）で観光ボランティアガイドが待機し、依頼に応じて現地でガイドを実施している。



小学生を対象とした総合学習

飯塚市【福岡県】

山城名：鹿毛馬神籠石
人口：132,591人（平成23年6月末現在）
面積：214.13km²
市の花：コスモス、スイセン
木：クスノキ、メタセコイア
花木：キンモクセイ、ジャクナゲ



市の概要

飯塚市は、福岡県のほぼ中央に位置し、東は田川市を中心とする田川圏域に、西は福岡市を中心とする福岡都市圏に、南は嘉麻市に、北は直方市を中心とする直方・鞍手圏域にそれぞれ接している。北と南は遠賀川流域平野、東は関の山、西は三郡山地等に囲まれ、生態系を保護する自然が現存。周囲の山脈に源を発する河川は、本市の北部に位置する旧飯塚市において多くの支流を集めて遠賀川となり、北流している。

気候は、盆地を形成しているため夏冬、昼夜の気温差がかなりあり、内陸性気候の特徴を示している。

本市は、弥生時代の立岩遺跡が所在し、近世の長崎街道の宿場町、近代の筑豊炭田時代の中心地などの歴史的な変遷を背景に、福岡県央地域の中心都市であるとともに、3つの大学を有する文化性・創造性を備えた情報産業都市、学園都市として位置づけられている。

現在、北部九州への集積が進む自動車関連産業への地元企業の受注拡大・新規参入に努めるとともに、企業誘致を積極的に実施。更に、豊かな資源を輝かせ、人が多く訪れるまちづくりを行うため、観光の振興にも取り組んでおり、平成19年4月末から一般公開した旧伊藤伝右衛門邸を始め、市内に点在する嘉穂劇場、長崎街道内野宿などの歴史的遺産を活用した観光ルートの整備にも努めている。

平成18年3月26日に飯塚市・穂波町・筑穂町・庄内町・頼田町が合併し、新しく誕生した飯塚市は、「人が輝き まちが飛躍する 住みたいまち 住みつけたいまち」を都市目標像に、市民との協働によるまちづくりに取り組んでいる。

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎ 川島古墳・小正西古墳公開

遠賀川流域古墳同時公開の一環として、古墳公園として整備されている川島古墳・小正西古墳を春2日、秋2日の計4日間公開している。当日は、文化財保護課職員と「飯塚歴史を語る会日有喜」が案内、解説を行う。



川島古墳

◎ 長崎街道ウォーク

長崎街道内野宿を中心に、文化財保護課職員が解説しながら長崎街道及び、その周辺を散策する。

◎ 鹿毛馬神籠石見学会

鹿毛馬神籠石（国指定）を、文化財保護課職員の案内・解説で見学する。約2キロ2時間の山歩き。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

◎ 飯塚の歴史を語る会「日有喜」

飯塚市歴史資料館を活動拠点とする解説ボランティア団体。市内の小学校から依頼があれば、アンギン編みや

勾玉作りや石臼での粉ひきなどの民具を使用したりする体験学習を行っている。

学校の歴史学習の一環として飯塚市歴史資料館を訪れる際には、展示解説も行っている。

飯塚市歴史資料館が子ども向けに開設している講座「おもしろ体験歴史館」の体験学習も行っている。



石臼体験

市民に向けた取り組み

◎ 筑豊飯塚観光案内人

旧伊藤伝右衛門邸を活動拠点とする観光ボランティア団体。

旧伊藤伝右衛門邸の来訪者への解説を行っている。

長崎街道飯塚宿（現在の本町商店街）での街あるき解説を行っている。（イベント企画時のみ）



旧伊藤邸を説明する観光案内

朝倉市【福岡県】

山城名：杷木神籠石
人口：57,685人（平成23年6月末現在）
面積：246.73km²



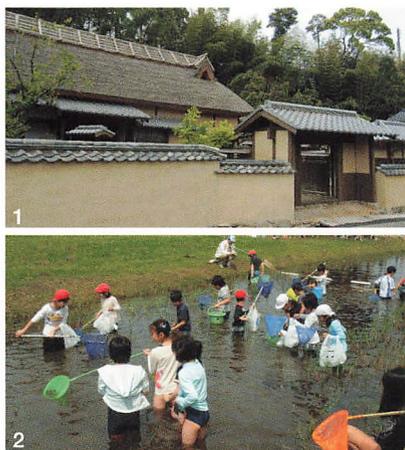
市の概要

福岡県のほぼ中央、筑紫平野の北東隅に位置する。北は古処山・屏山といった山々に、南は筑後川に区切られたこの地域は豊かな自然に恵まれ、古代から多くの歴史を刻んできた。

古くは弥生時代の大集落“平塚川添遺跡”があり、古代では百済救援のための行宮“朝倉橋広庭宮”、中世には彦山座主の居館である“黒川院”が置かれた。近世では秋月藩の城下町としての“秋月”、筑前在郷一の賑わいを見せた“甘木”、現在も稼動する“三連水車”などが知られ、近代では東洋一と謳われた“大刀洗飛行場”など、どの時代においても特徴ある史跡が存在する。

自然では“古処山ツゲ原始林”や“隠家森”（大樟）の他、ビャクシン・ケヤキ・マキなど多種多様な巨木があり、秋月“杉の馬場”や“丸山公園”、“夕月神社”は桜の名所として賑わいを見せる。

祭では“泥打ち祭り”、“おしろい祭り”などの奇祭のほか、中世の様相を色濃く残す“黒川の宮座”など、地域の伝統が守り続けられている。



歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎ 市民まつり

平成13年～20年まで平塚川添遺跡公園を会場に「邪馬台国祭り」と称して市民まつりを開催

◎ JAF共催事業

JAF会員を対象とした勾玉づくりや古代食調理など体験イベントを実施

◎ JRウォーキング

JRと甘木鉄道、朝倉市観光協会などで実施。平塚川添遺跡公園をウォーキングルートに。

新たな取り組み

◎ 「旧田代家住宅」公開

秋月藩上級家臣の武家屋敷。文化12（1815）年頃に建てられ、主屋の他、土蔵や門、土堀、庭など武家の生活風景を復元。平成22年6月から一般公開している。（入館無料）

今後の取り組み予定

◎ 小田茶臼塚古墳整備事業

史跡地公有化事業。整備計画は策定済み。

◎ 旧三奈木黒田家庭園整備事業

史跡地公有化事業。

◎ 秋月地区町並み保存事業

伝統的建造物の修復、防災施設の整備、環境整備事業。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

◎ 「古代体験あさくら子どもの日」

市内小学校（14校）の第4学年（約500名）を対象に、平塚川添遺跡公園にて終日、古代体験活動を行う。活動内容は、勾玉づくり、火おこし、筏あそび、弓矢・槍投げ等。

◎ 「自由研究関連事業」

小学生の自由研究を支援するための、テーマ選定や研究法、まとめ方などを指導する「自由研究支援講座」や、平塚川添遺跡公園を利用した自然観察や拓本などの歴史体験を実施。自由研究作品は、入選作品を展示する。

◎ 「平塚コダイきゃんぷ」

小学生を対象に、平塚川添遺跡公園での火おこしからの調理体験、食器作り、自然観察など体験活動を実施。

市民に向けた取り組み

◎ 平塚川添遺跡公園での活動

平塚川添遺跡公園に飛来する冬鳥を観察する「冬鳥観察会」や正月飾りを同公園内で燃やす「火祭り」など、同公園に親しんでもらう活動を実施、また10月～3月の間で計11回、市民を対象とした「トンボ玉講座」も実施。作品は同公園と甘木歴史資料館で展示する。

◎ 出前講座

市内の史跡や歴史について、要望に応じて出前講座を実施。

◎ 装飾古墳同時公開

北筑後文化財行政連絡協議会主催で、北筑後管内の装飾古墳を市民に公開（朝倉市内では狐塚古墳）

1.旧田代家住宅
2.古代体験あさくら子どもの日

久留米市【福岡県】

山城名：高良山神籠石
人口：303,050人（平成23年7月1日現在）
面積：229.84km²
市の花：久留米つつじ、コスモス
木：榎、久留米つつじ、くろがねもち、けやき、くすのき



市の概要

久留米市は、福岡県南西部に位置する中核都市で、九州を縦貫・横断する高速自動車道、国道、鉄道のクロスポイントに立地する交通の要衝である。

市の北東部から西部にかけては九州一の大河・筑後川が貫流する。南東部は東西に耳納山、高良山などの山々が連なり、西側の広大な沖積平野の平坦地に続いている。

この恵まれた自然環境のもと、約2万年前の旧石器時代より人々の生活が営まれている。古代には筑後国府が置かれ、さらに江戸時代には久留米藩有馬家21万石の城下町として発展した。明治22年には福岡市や熊本市などと共に市政を施行し、現在市政120周年を迎えている。ゴム工業を中心とした商・工業、また肥沃な土地を活かした農業も盛んな市であり、近年はラーメン、焼き鳥、うどんなどB級グルメの街としても注目されている。



高良山神籠石

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎ 久留米ほとめきマップの作成

市内の地域ごとのまち歩きマップを作成し、それぞれの歴史資産を紹介。

◎ 歴史探訪

文化財周知事業として、市民の参加を募り市内の文化財などをめぐるバス見学会を年1回実施している。

今後の取り組み予定

◎ 史跡筑後国府歴史公園整備事業

国指定の前身官衛地区、第1期政庁地区、第2期政庁地区、国司館地区について公有化を進め歴史公園を整備する。

◎ 大塚古墳歴史公園整備事業

国史跡田主丸大塚古墳を中心とした歴史公園整備。第1期事業（公園部分整備完了）、第2期事業（史跡部分を推進中）。

◎ 善導寺大庫裏他6棟保存修理事業

重要文化財建造物善導寺の解体修理。

◎ 水縄断層歴史公園整備

国天然記念物水縄断層の整備。事業用地は公有化済。

◎ 安国寺甕棺墓群整備

国史跡安国寺甕棺墓群の史跡整備。事業用地は公有化済。

◎ 史跡高良山神籠石環境整備

国史跡高良山神籠石の環境整備。基本計画は策定済。修復を中心に実施。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

市民に向けた取り組み

◎ 文化財サポーター育成

平成22年度には合計28回の研修を実施（うち座学13回、展示補助等の実技7回、市外見学1回など）、収蔵品のケアや企画展の展示補助、解説などを行なう人材を養成した。平成23年度は19名が登録。

◎ 市政パートナー制度活用事業

近代洋画の巨匠坂本繁二郎の生家で、久留米に残る唯一の武家屋敷である坂本繁二郎生家の活用、坂本の生涯・業績についての周知啓発を行なっている。

◎ 筑後国府展

周防国府と共に全国の国府跡調査の先駆けとなった筑後国府跡の発掘調査開始50周年を迎え展示会を開催する。

みやま市【福岡県】

山城名：女山神籠石
人口：41,426人（平成23年7月31日現在）
面積：105.12km²
市の花：さくら
木：楠



市の概要

みやま市は、平成19年、旧山門郡の瀬高町・山川町と旧三池郡高田町が合併して発足した。福岡県の南部に位置し、一部が熊本県と接している。

東部は御牧山、清水山など丘陵や山系が連なる西部は有明海の干拓によって開かれた低地があり、平坦な田園地帯を形成している。

基幹産業は農業。旧瀬高町東部および南部から旧高田町にかけては主に米作、瀬高町北部ではハウス農業でなすやセロリの栽培が盛んに行われている。市の東部を南北に貫く九州自動車道の東側および旧山川町域の大部分は山地となっており、この地域ではみかんを中心とした柑橘類の生産が盛んである。南部の有明海に面する地域では海苔養殖を含めた漁業も行われている。

古くは矢部川を水上交通路として

利用したり、街道が通るなど陸上交通の要衝であったために、瀬高町上庄下庄の両地区は古くより市街化し宿場町として栄え、現在も酒造が盛んである。

市内瀬高地区ある女山神籠石は、全長約3kmに及び、山麓最北端の横尾谷より北半分についてはまだ不明である。これまで「神域説」と「山城説」の両説の間で争われてきたが、近年の調査により七世紀頃に構築された山城遺構とする見解が強まっている。

女山神籠石の配列の形状は、古塚山を中心に1辺約70cmの立方体に加工された礫岩が、山にほぼ馬蹄状に並んでいた。

列石を横切る横尾谷・長谷・源吾谷・産女谷には水門が設けられており、そのうち、横尾谷と長谷が比較的水門の原形をとどめている。

列石の内部には多数の古墳があり、中広形銅矛・勾玉などの出土品も多い。

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎ 史跡内容確認調査

平成22年度～24年度にかけて、女山神籠石の現状確認を中心に水門の図面化を行い、保存活用等に必要な列石、水門の基礎資料を作成し、保存整備等に活用する。

◎ 文化財マップづくり

文化財マップを作成し、内外に市内の文化財を発信している。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

◎ 小・中学校を対象とした女山見学・説明

地域の歴史・文化に触れて、親んでもらうことを目的に、市内の小・中学校や各種団体からの要請があれば、女山の水門の見学や古代山城についての説明などを行っている。

市民に向けた取り組み

◎ 「広報みやま」での啓発

市の広報誌「広報みやま」の中のコーナー「歴史の広場」で、女山神籠石の概要や歴史的な背景、古代山城についてなどの記事を数回にわたって掲載。地域の歴史や文化を再認識してもらう取り組みを行っている。



1.横尾谷水門 2.女山神籠石長谷水門

行橋市【福岡県】

山城名：御所ヶ谷神籠石
人口：72,323人（平成23年6月末現在）
面積：69.83km²
市の花：コスモス
木：モクセイ



市の概要

福岡県東部に位置し、福岡市から東70kmに位置する、京築地域（福岡県の東部地域）の中心都市である。行橋駅を中心に市街地を形成している。近年は、北九州市のベッドタウン化が進み、現在でも人口は増加傾向にある。海岸部の稲童地区には工業団地が整備されている。現在、市域を南北に貫く東九州自動車道が建設中で行橋ICで201号線に接続予定である。地形は市の東側に周防灘があり、今川、長峽川、祓川の3本の川が流れ込んでいる。市域のほとんどが平野部で山地は少なく、山地は南西部のみやこ町と隣接する地域と、北東部北九州市と隣接する一部地域に存在する程度である。

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎「ゆくはし探訪」

行橋市の史跡ガイドボランティア（＝市民学芸員と呼称）が、企画運営に携わり、毎回テーマを決めて、市内の文化財を探訪する。年4回実施。対象は一般市民（約100名）

◎「ゆくはし遺産絵画展」

平成20年度に行われた「神籠石サミット」を記念し、以後毎年開催。市内の様々な文化財・美しい景観を「ゆくはし遺産」と位置づけ、これらをテーマとした絵画展を市在住の小・中学生を対象に夏休みの課題として応募。平成23年度は、行橋赤レンガ館（旧百三十銀行行橋支店）と北九州空港の2ヶ所を会場として絵画展を行う。

今後の取り組み予定

現在「史跡御所ヶ谷神籠石整備基本設計」を策定中で、その中で取り組みを検討していきたい。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

主に市内の小学生を対象とした出前授業を実施。地域の歴史の講話や史跡見学などを行っている。

また、市内の稗田小学校では、4年生の児童が地域出身の偉人である、「末松謙澄」や「竹下しづの女」の関係史跡の清掃活動を毎年行っている。

中学生対象としては、職場体験の中で主として歴史資料館が生徒を受け入れている。

市民に向けた取り組み

◎ 歴史資料館講座

年11回開催。大学研究者、郷土史家、市文化財担当職員らを講師として、開催。対象は市民を中心とする。資料代として年会費3,000円を徴収。定員は80名程度。

◎ 市民学芸員育成事業

行橋市内を「ゆくはし屋根のない博物館」とし、市内文化財ガイドボランティアを「市民学芸員」と位置づけ活動を行っている。登録は上述の資料館講座受講が前提条件になる。現在20代～70代の30名が登録。高齢者が多い。

◎ 親子とめぐる行橋の史跡

平成23年度新規事業。市内小中学校児童・生徒とその保護者が対象。夏休みの1日を利用して、市バスで市内の遺跡、歴史資料館を見学。

史跡ガイドボランティアによる「ゆくはし探訪」



佐賀市【佐賀県】

山城名：帯隈山神籠石
人口：234,926人（平成22年度末現在）
面積：431.42km²
市の花：さざんか
木：いちよう



市の概要

佐賀市は、平成17年10月1日に佐賀市、諸富町、大和町、富士町及び三瀬村が合併して誕生。

さらに平成19年10月1日には、川副町、東与賀町及び久保田町と合併し、人口241,361人（平成17年国勢調査）、面積431.42平方キロメートルの市となった。

新しい佐賀市は、脊振山系の山ろく部の山林や清流、古代肥前の国の行政府跡「肥前国庁」、中心部の長崎街道に代表される歴史遺産や佐賀城公園、日本の近代化を先導した“幕末維新时期の佐賀”の魅力を紹介している佐賀城本丸歴史館、筑後川にかかる昇開橋や佐賀平野に広がるクリークや田園風景、豊饒の海といわれる“有明海”など素晴らしい環境に恵まれている。特に観光面においては、山間部にある観光りんご園、温泉、スキー場、また沿岸部における干潟の個性的な動植物など、多様な魅力を備えるまちとなった。

市民や地域が、それぞれの個性や魅力を発揮しながら、市の将来像として掲げている“人と自然が織りなす「やさしさ」と活力にあふれるまち さが”の実現を目指している。



三重津海軍所跡

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎ 東名遺跡

縄文時代早期の湿地性貝塚である東名遺跡に関するシンポジウムを平成20年に実施。また現地でガイダンス展示を実施

◎ 肥前国庁跡に関する取り組み

奈良平安時代の肥前国の役所跡である国史跡肥前国庁跡を歴史公園化。活用について平成21年にシンポジウム開催した。

◎ 世界遺産シンポジウム

世界遺産の登録を目指している幕末の近代化産業遺跡「三重津海軍所跡」などについてシンポジウムを実施。

◎ 佐賀市歴史民俗館

佐賀市柳町周辺を主に明治大正期の建物群を保存活用して、佐賀市歴史民俗館として公開。

今後の取り組み予定

◎ 佐賀城築城400年記念

- ・天守閣検証事業
天守閣発掘調査に先駆けて、市民を対象とした、佐賀城周辺「早朝ウォッチング」を開催する。
- ・天守閣発掘調査現地説明会
発掘調査に伴い、一般公開を行う。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

◎ 夏休み子ども体験学習

親子で勾玉づくりを行い、子ども達に古代人の追体験をさせる事によって、「なぜそれが作られたのか」「どのようにして作られたのか」という事を考えさせ、文化財に対する興味を持たせる。

市民に向けた取り組み

◎ 職員による出前講座

10名以上で構成された団体及びグループに対して出前講座を行う。

- ・地域の文化財（身近な文化財の紹介や文化財保存に関する基礎知識）
- ・佐賀市から世界遺産を（幕末佐賀藩の重要産業遺跡、世界遺産登録推進の取り組み状況などを紹介）
- ・縄文時代の貝塚（日本最古の湿地性貝塚である東名遺跡の重要性を紹介）
- ・肥前国庁跡歴史公園（歴史公園の紹介と肥前国庁の歴史の紹介）



親子勾玉づくり

神崎市【佐賀県】

山城名：帯隈山神籠石
人口：33,265人（平成23年7月末現在）
面積：125.01km²
市の花：桜
木：もみじ



市の概要

神崎市は、平成18年3月20日に神埼町・千代田町・背振村の3町村が合併し、誕生。佐賀県の東部に位置し、脊振山（1055m）を最高峰とする北部山間地帯と、脊振山に源を発する城原川等の河川により形成された肥沃な平野部からなる南部穀倉地帯に分かれ、南北に細長い形を成している。

市域には、旧石器時代から近代に至る人々の生活の跡が残っている。丘陵部から平野部にかけて全国最大規模の環濠集落である「吉野ヶ里遺跡」をはじめとして多数の弥生時代の集落や墓が形成され、南部の沖積平野部においては全国的に珍しい弥生時代の貝塚が分布。佐賀市と神崎市にまたがる帯隈山一帯には神籠石が造られ、古代から中世にかけて皇室領荘園である「神埼荘」が形成される等、中央と深い関わりを持つ地域であった。中世には堀（クレーク）を縦横に廻らせた「姉川城跡」や「直鳥城跡」等の平地城館や環濠集落が多数形成され、佐賀平野独特の農村景観を形成。江戸時代には長崎街道が整備され、市内には神埼宿・境原宿の宿場が設けられた。また、長崎街道において唯一築山が現存する一里塚（ひのはしら一里塚）や二日市、四日市等の当時の地名が現存。このほかにも、伝承芸能として大御田舞や太神楽、高志狂言等が地域の人々により継承されているなど、市内には、遺跡をはじめ歴史的建造物・寺社など多くの歴史的、文化的遺産や様々な郷土芸能や伝統行事等が残っており、地域文化を形成している。

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

- ◎ **長崎街道かんどき宿場まつり**
長崎街道の要衝を廻る「ふれあい街道ウォーク」や国登録文化財「旧古賀銀行神埼支店」の公開等を実施。
- ◎ **名勝「九年庵」公開**
市内にある名勝「九年庵」を毎年11月15日～23日までの9日間のみ一般に公開していたが、昨年度より4月末から5月初旬にも公開している。
- ◎ **姉川城跡保存整備**
平成22年に国史跡に指定され、現在保存活用計画の策定中。

今後の取り組み予定

- ◎ **櫛田宮・長崎街道の歴史的建造物と歴史文化を活かした活気ある中心市街地の再生活動事業**
佐賀県や神崎市の支援を受け、地域の関係CSO団体（地域自治体・町内会など地縁団体やその地域に関わりが深い市民社会組織などの志縁団体）がより実現性を高めるため、周辺の歴史資源をあらためて調査して再生策定を行い、地域資源を生かした活気ある中心市街地の再生活動等を行う。

歴史遺産や文化に関する国際交流

- ◎ **王仁博士生誕地史跡訪問ツアー**
神崎市竹原地区の鰐神社には「王仁天満宮」と記された石碑があることから、霊岩郡にある王仁博士祠堂、

霊月館ビジターセンター、千人千字文碑等の施設がある王仁博士遺蹟址や日本に向けて船出したと伝えられる地に建つ霊岩陶芸文化センター等の王仁博士ゆかりの地を訪れるツアーを実施。吉野ヶ里遺跡、王仁天満宮並びに日韓相互の王仁研究等、観光資源としての展開を目指している。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

市民に向けた取り組み

- ◎ **神埼塾講座**
神埼の歴史や自然・地域活動などをテーマに、神埼のことを知り、市民学芸員として、神埼のまちづくりへ参加してもらい、年間で11講座を開催し、10講座以上の受講で市民学芸員の認定証が授与される。
講座ごとに歴史文化や動植物の専門家らを講師に迎える。



1.王仁博士生誕地史跡訪問ツアー
2,3.神崎市まちづくりワークショップ

武雄市【佐賀県】

山城名：おつぼ山神籠石
人口：51,300人（平成23年6月現在）
面積：195.44km²
市の花：ツツジ
木：クスノキ



市の概要

武雄市は佐賀県西部に位置する温泉都市で、平成18年3月に旧武雄市・山内町・北方町の1市2町が合併し誕生した。特異な形をした御船山や桜山、植物の宝庫である黒髪山、三本の大楠に代表される豊かな自然を育む山地と、六角川や松浦川によって形成された平野からなる。

博多駅、佐賀空港・長崎空港からJRや車で1時間のところに位置する利便性のよい街である。この利便性を活かし、工業団地の整備や画期的な補助制度の創設等、企業誘致に動いている。

また武雄市は観光にも力を入れており、8世紀前半に編纂された『肥前国風土記』にも記述される武雄温泉は、現在も観光の要として由布院温泉・杖立温泉と連携した九州三湯物語事業などを展開。海外からの観光客を呼び込むため、佐世保市のハウステンボスとも連携している。

歴史の面では、弥生時代の社会構造を考える上で重要な青銅器の出土が豊富で、古墳時代には朝鮮半島の影響を受けた遺物が副葬されたものや線刻装飾されたものをはじめとする古墳が数多く築造されている。7世紀代には唐・新羅の日本侵攻に備えておつぼ山神籠石が築かれた。

武雄は地理的に大陸・朝鮮半島と近く、江戸時代には西欧との窓口となった長崎とも縁が深く、時代ごとに日本と海外の国際的な動きの影響を受けている。また日本の歴史の流れを反映した歴史遺産・文化財が数多く残されている地域である。

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎ 武雄温泉楼門の保存修理

武雄のシンボルである「武雄温泉新館及び楼門」の保存修理を行い、平成17年に国の重要文化財に指定された。

近年の取り組み

◎ おつぼ山神籠石保存管理計画及び整備計画策定事業

おつぼ山神籠石の今後の管理・整備・活用等に対する意見の収集及び、おつぼ山に対する関心を高めることを目的とする事業。市民に対するおつぼ山神籠石に関するワークショップの実施。

◎ 武雄の古きよき文化・歴史を再発見する協議会事業

地域の美点と魅力を発掘、再発見し、より一層の郷土を愛する心を深め武雄を全国へ発信することを目的とした事業。戊辰戦争の際、秋田で亡くなった武雄の先人を慰霊し、武雄の歴史を学んでくることを目的とする「秋田・戊辰戦争戦没者慰霊・市民墓参団」や、武雄の伝統料理を発掘するとともに、作った料理のレシピを冊子にまとめ、「郷土料理の再発見講座」を実施した。

平成23年度は「ふるさと再発見写真コンテスト」と「武雄市伝統芸能まつり」の実施を計画している。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

市民に向けた取り組み

◎ ファミリーふれあい史跡めぐり

市内外の「武雄」ゆかりの史跡・博物館等を訪ね、武雄の歴史・魅力を再発見し、「武雄」の歴史・魅力を体験することを目的とする。たけおスポーツクラブと連携し、年5回、バスとウォーキングで史跡等をめぐり、解説を行う。

◎ 出前講座

市主催で、市民を対象に行政の仕組みや事業の内容など様々なメニューにあわせた解説等を市職員が行う。文化財関係では「武雄市の文化財散歩」「発掘!地域の歴史」「武雄の蘭学」「戊辰戦争と武雄」「皆春齋の絵画」などのメニューがある。

◎ ボランティア観光ガイド入門講座

観光ガイド入門講座。観光ガイドの概要、武雄焼、温泉、文化財等についての講習。



1.ファミリーふれあい史跡めぐり
2.おつぼ山神籠石ワークショップ

光市【山口県】

山城名：石城山神籠石
人口：54,229人（平成23年7月31日現在）
面積：91.94km²
市の花：ウメ
木：クロマツ



市の概要

瀬戸内の温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれており、白砂青松の室積・虹ヶ浜海岸や象鼻ヶ岬など風光明媚な海岸部は瀬戸内海国立公園に、また、青々とした森の石城山を中心とした山間部は石城山県立自然公園に、それぞれ指定を受けている。

また、今年7月に第6次産業を目指した農業振興拠点施設「里の厨（くりや）」を開設し、地元生産者による新鮮で安全な農産物等地産地消の促進や体験農園などを展開し、伊藤公記念公園（初代内閣総理大臣伊藤博文生誕の地）などの周辺観光施設と連携した観光振興を図っている。

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

平成21年度に、光市で生まれた初代総理大臣伊藤博文公の没後100年を記念し、伊藤公の業績や教え、想いを次世代に伝えるため、伊藤公ゆかりの自治体との連携による「遺墨遺産展」や「記念大会」等を実施した。

また、平成21年度から22年度にかけて、「史跡石城山神籠石保存管理計画策定事業」を実施し、石城山神籠石を次世代に継承していくため、史跡の適切な保存管理を行う方法と、今後の有効な活用のための連携を行っていくことを目的とした計画を策定した。

今後の取り組み予定

◎ 「史跡石城山神籠石保存管理計画策定報告書」に基づく活用と連携

本年3月に刊行した報告書に基づき、石城山神籠石が貴重な郷土の財産であることを広く情報提供していくとともに、市民ボランティアの輪を広げるなど、市民との協働による保存管理と活用を行っていく。

◎ 農業と文化の連携による観光振興（仮称）

今年7月開設した光市農業振興拠点施設「里の厨（くりや）」と石城山神籠石、伊藤公記念公園の連携による観光振興。

◎ 市民ボランティアグループによる地域学習

次世代を担う青少年を含めた市民ボランティアグループによる歴史遺産の清掃活動を通じた地域学習。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

◎ 伊藤公資料館 子ども歴史講座（石城山神籠石編）

市内小学校高学年から公募し、石城山神籠石に構築された水門の石垣の組み方や石の大きさ・形を比較させるなど、様々な違いを見出し、古代ロマンを感じさせる。

◎ 市内の遺跡に関する講義

市内小学校6年生の授業の中で、市内の遺跡について、その当時の生活様式や出土資料等について市の教育委員会職員（学芸員）が市内のボランティアグループと連携して講義している。

市民に向けた取り組み

◎ 大和観光ボランティアガイドの会（地元ボランティア）

内外からの来訪者に対する歴史遺産の案内や市内学生への教養講座を実施。

◎ 歴史講座の開催

文化センターの成人大学講座において、地域に関わる歴史講座を開催し、歴史遺産の周知に努めている。



1.石城山神籠石 西水門 2.石城山神籠石 北門 3.伊藤公没後100年記念事業 4.伊藤公子ども歴史講座（石城山神籠石） 5.里の厨

上毛町【福岡県】

山城名：唐原山城
人口：8,073人（平成23年7月末現在）
面積：125.01km²
町の花：（春）桜、（秋）秋桜
木：梅



町の概要

福岡県の最東端に位置する町で、平成17年10月11日に旧新吉富村と旧大平村が合併して誕生した。

西は豊前市、北は吉富町、東は一級河川山国川を境に大分県中津市と隣接している。南に連なる英彦山山地から北の周防灘へ向かって緩やかに下降する丘陵地にあり、丘陵裾には平野が広がるなだらかな田園地帯である。

東に接する大分県中津市を中心とする九州周防灘地域定住自立圏の構成自治体であり、経済、生活、文化、教育、観光など全ての面で、県境を越え大分県北部と密接な関係が構築されている。

町内各所には国指定史跡4件をはじめ県指定、町指定の他多くの文化財が分布している。特に福岡県東部地域に特徴的なものとして修験道遺跡がある。町の南西には英彦山六峰を構成する松尾山が位置しており、町内各所にはその関連遺構が点在している。

歴史遺産を活用したまちづくりについて

新たな取り組み

◎ 文化財活用 まちづくり計画策定事業

現在、町が主体的に保存措置を講じ、管理を行っている文化財は指定文化財が中心である。それ以外にも町内には隠れた文化財が各地域に点在しているが、一般市民の日常生活や意識とはかなりの距離があり、決して身近な存在だとはいえない。

一方、地域住民や団体による文化財の保護活動、民俗文化財の保存継承活動など、文化財を取り巻く地域の人々が様々な活動を行っている。これら地域の人々の活動と文化財の保存活用を結びつけるため、地域と行政が連携することが必要である。

将来に向けて文化財をまちづくりに活かすため、行政と住民の協働による望ましい保存活用の方針を示すために、「上毛町文化財活用まちづくり計画」を策定する。

今後の取り組み予定

◎ 松尾山修験道遺跡環境整備事業

発掘調査によって確認された遺構の復元を行い、遺跡全体の整備を図る。遺跡の点在する山内をめぐる遊歩道、各種サインを設置することにより、歴史のみならず、健康維持や体力づくり、俳句、絵画など様々な趣味趣向を持つ人々が山の歴史・文化・自然を活用することが出来るよう整備を進めている。

◎ 国指定史跡友枝瓦窯跡 保存整備事業

史跡指定地内3基の窯跡について発掘調査を実施し、一般に公開するために保存修理を行い、併せて見学者用駐車場やガイダンス施設などの周辺整備を実施する。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

町立友枝小学校6年生を対象に実際に行う稲作体験による米づくりと、修験道遺跡である松尾山三社神社に伝えられる福岡県指定無形民俗文化財「松尾山のお田植祭」の演舞習得と継承活動を実施。修験道の歴史や文化を学び、稲作に対する昔からの人々の思いや願いを学んでいる。

また、町立小学校4校の6年生には総合学習や社会科授業の中で、子ども達が事前に調べた歴史について関連する町内の文化財をめぐり、文化財担当職員が児童に解説。最終的には事前の調べ学習と現地の説明をまとめて発表を行っているほか、体験学習として縄文土器の製作や焼成、勾玉作りなども実施。

市民に向けた取り組み

◎ 文化財ガイドブックの作成

町内で文化財を活用した地域づくり活動を実践している団体が、町内に所在する文化財の解説やテーマにそった見学ルートを紹介するガイドブックを作成している。その団体の取り組みに対して原稿校正などのアドバイスや費用の補助を行っている。



1.唐原山城跡全景 2.修験道遺跡整備 3.町立小学校6年生への説明 4.松尾山のお田植祭

坂出市【香川県】

山城名：城山
人口：55,138人（平成23年7月1日現在）
面積：92.46km²
市の花：桜、コスモス
木：珊瑚樹



市の概要

香川県のほぼ中央に位置する坂出市は、綾川を中心に豊かな田園地帯が開けている。また海に連なる島々には、本州と四国をつなぐ最初の橋梁である瀬戸大橋が懸架されている。

江戸時代末期に塩田が盛んになって以降、塩とそれを積みだす港の町として栄えてきたが、現在では「番の州」にある臨海工業地帯、それに伴い整備されてきた坂出港により、工業と港の町として発展している。

歴史的には、石器の素材である「サヌカイト」の産出地として知られる。平安時代には国府がおかれ、菅原道真も国司として赴任した。また保元の乱に敗れた崇徳上皇の配流地でもあるなど、城山の存在と合わせ、古のロマンのまちとしての資源を多く有している。

市内にある古代山城跡・城山は、城山長者の伝説と結びついていて、坂出の昔話として語り伝えられている。以前は朝鮮式山城とも神籠石とも言われていたが、今日では朝鮮式山城に類似する構造の城跡とされており、城門跡、水門等が確認されている。平たん部から急斜面へと変換する地点付近には石塁・土塁が一重から二重に築かれている。

このほか、山中にはホロソ石・マナイタ石と呼ばれる奇妙な石製加工物が散在。これらは幾つか存在したと考えられる城門の礎石ではないかと推測されているが、不明な点が多くいまだなぞに包まれた遺跡である。

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎ 天狗まつり

保元物語や雨月物語などの文献にもしばしば登場し日本八大天狗の一狗である「白峰山の相撲坊天狗」をテーマに10の具（てんぐ）の入ったうどんの接待をはじめ、マラソン大会など多彩な行事を催した。

新しい取り組み

◎ こんびら街道まちあるき

香川県埋蔵文化財センターの職員が、約1300年前の香川県庁にあたる、讃岐国府の跡を案内する。また、神谷神社の宮司のガイドで、国宝である本殿や重要文化財の木造随神立像などを拝観するコースもある。

今後の取り組み予定

◎ こんびら街道まちあるき 新コース設定

上記のこんびら街道まちあるきの中で坂出にまつわる6人の偉人（柿本人麻呂、理源大師、菅原道真、崇徳上皇、西行法師、久米通賢）に縁のある土地を巡る新コースの構築。

◎ まちかど観光案内所

市内の店舗や事業所を対象に、道路案内や休憩所の提供が可能な加盟店の募集。加盟店は市から認定を受け、本市を訪れるお遍路さんや観光客の方々に対して、各種観光案内や観光パンフレットなどを提供するほか、のぼりやパンフレットスタンド

の設置等、可能なサービスの提供を行い、官と民が一体となり、「おもてなし」の心で旅行客を迎え、坂出の魅力を発信する地域の観光案内所として事業展開を図る。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

◎ さかいでっこガイド隊

市内の小学校5、6年生、中学生より参加者を募り、坂出にある史跡を巡り案内するガイド隊としての育成を行う。平成23年度は、崇徳上皇関連史跡を対象として実施。



1.2.さかいでっこガイド隊の活動の様子

西条市【愛媛県】

山城名：永納山城
人口：114,355人（平成23年8月末現在）
面積：509.07km²



市の概要

愛媛県の東部、南には西日本最高峰である石鎚山を、北には瀬戸内海を臨む道前平野に位置する。西条市は、この恵まれた環境を利用し、古くから農業や水産業が盛ん。近年では、臨海部の埋立地では造船場や半導体工場、ビール工場等約2630社の企業が立地し、四国屈指の工業集積地にもなっている。

市内の高縄半島の付け根、瀬戸内海の要衝である来島海峡を一望できる場所に、愛媛県唯一の古代山城・永納山城跡があり、この貴重な遺跡を守り伝えていくために、発掘調査を進めている。

現在は、「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」をまちづくりの基本理念に掲げ、市政に取り組んでいる。

主な特産物は、生産量全国一を誇る裸麦、あたご柿、春の七草や、絹かわなす、海苔など。

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎ 発掘現地説明会の開催

平成18年度の確認調査開始以来、調査成果に合わせ「永納山城跡」の発掘調査現場において、現地説明会を実施。21年度は内部施設の存在を確認するための調査を行っており、その成果について報告。

また、22年は古代山城では岡山県の「鬼ノ城跡」に次ぎ、国内で2例目となる“鍛冶炉”の遺構を中心に説明を行った。

◎ 地元ボランティアによる活動

永納山城跡の地元「永納山古代山城跡の会」があり、現地説明会の補助や、市内の小中学校への普及活動を行っている。

今後の取り組み予定

◎ 永納山城跡整備事業

永納山城跡を活用するために、平成23年度から史跡用地の公有化に着手。今後、具体的な保存整備計画についても検討を行っていく予定である。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

市職員による市内小学校への歴史出前講座や「永納山古代山城跡の会」による永納山城の所在する地元小学校児童に対する勉強会がある。

市民に向けた取り組み

◎ 旧公民館を活用した展示

「永納山古代山城跡の会」が、旧公民館を活用して手作りの展示施設「永納山の部屋」を設置しており、そこで永納山城跡概要等についての展示、説明を実施している。

また、要望に応じて、市内で実施されるイベントや図書館に出張展示も行っているほか、公民館や学校での出前講座も実施している。

◎ ホームページ・市報での紹介

市のホームページ内で、永納山城跡を紹介するページを設け、永納山城跡の概要や、設置の背景、古代山城についての知識を深めてもらっている。また調査成果については、市報でも情報発信も行っている。



1. 永納山の部屋
2. 出前展示の様子



今治市【愛媛県】

山城名：永納山城
人口：169,910人（平成23年6月末現在）
面積：41.99km²
市の花：つつじ
木：くすのき



市の概要

今治市は、愛媛県の北部に位置し、瀬戸内海のほぼ中央に突き出した高縄半島の東半分の陸地部と、芸予諸島の南半分の島嶼部から構成される。

市内には数多くの遺跡が確認されているほか、古代には伊予国府や伊予国分寺が置かれるなど伊予国の中心として栄え、中世には村上水軍が台頭し、戦国の動向に大きな影響を与えるなど、古くから瀬戸内海航路の要衝として海とともに発展してきた。

また、古代山城である永納山城跡の一部が市域にかかっている。

平成11年には瀬戸内しまなみ海道が開通し、平成17年には12市町村の合併により愛媛県下では松山市に次ぐ第2の都市になった。

瀬戸内海の風光明媚な景観と、大山祇神社や水軍関連遺跡などの歴史遺産を誇る観光都市として、また造船や海事関連企業が集積する世界有数の海事都市となっている。

歴史遺産を活用したまちづくりについて

これまでの取り組み

◎「妙見山古墳 藤山歴史資料館の整備」

古墳時代初期の貴重な前方後円墳である国史跡「妙見山古墳」の調査・発掘成果を広く知ってもらうため古墳を保存整備し、その展示施設、大西藤山歴史資料館を整備。古墳から出土した資料や発掘調査時の写真の他に、実物大のジオラマやイラスト、触れる体験展示など親しみやすい展示を行っている。

妙見山古墳がある大西地区では毎年秋に「おおにしフェスタ」を開催。今年度この中で、市民に古墳を体験してもらうための見学会なども計画している。

◎「能島城跡の保存整備」

かつて瀬戸内海で君臨した能島村上水軍の居城があった能島は、周囲720m、面積1.5haの無人島。現在も船かかし、けい船などに使ったと見られる柱穴が残っており、国史跡となっている。市では保存整備のための発掘調査を継続して実施している。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

市民に向けた取り組み

◎「能島城跡・村上水軍に関する発掘調査の発表会」

能島の対岸に、村上水軍の歴史を伝える村上水軍博物館を設置。能島村上家伝来の貴重な品々の展示や、水軍の歴史・文化の研究、啓発活動を行っている。

また、毎年度末には、能島城跡の発掘調査の成果を市民に知ってもらうための説明会を開催している。



1. 妙見山古墳
2. 村上水軍博物館



山鹿市【熊本県】

山城名：鞠智城
人口：56,613人（平成23年8月末現在）
面積：299.67km²
市の花：つつじ
木：きんもくせい
鳥：うぐいす



市の概要

山鹿市は、熊本県北部に位置し、福岡・大分の両県と境を接している。市の北部には美しい山間地域と清らかな渓谷・溪流があり、中央部から南部にかけては、菊池川水系の恩恵を受けた田園地帯が広がる自然豊かな都市である。

市内には豊富な湯量と良質な泉質で知られる山鹿温泉郷をはじめ、古き町並みを今に伝える豊前街道、国指定重要文化財「八千代座」、国指定史跡「方保田東原遺跡」など多くの史跡を有し、「歴史浪漫息づく田園観光都市」としても知られ、毎年8月15・16日に行われる「山鹿灯籠まつり」は、全国から多くの観光客が訪れる。

基幹産業は農業であり、県内一の生産量を誇るたけのこや栗の他、良質な米、スイカやメロン、きんかん、アスパラガスなど、恵まれた自然環境と共に品種改良や品質管理などへの取り組みにも力を入れ、安全でおいしい農産物を提供している。

工芸品では、室町時代から伝わる木や金具をまったく使わず和紙と糊だけでつくる「山鹿灯籠」と江戸時代から伝わり柿渋を塗る技法を用いる「来民うちわ」が県の伝統工芸品となっている。



歴史遺産を活用したまちづくりについて

新たな取り組み

◎「山鹿歴史観光八十八ヶ所巡り」マップ作成事業

山鹿市商工会の会員によって、あまり知られていない文化遺産や観光スポットを掘り起こし、ガイドマップを作成。マップのイラストは県立鹿本商工高等学校の生徒たちによる。会員の事業所（店舗等）にのぼり旗を設置し、案内や解説等を実施している。今後は掲載スポットを巡るスタンプラリーを開催する予定。

◎物産館めぐりバス運行事業

山鹿市物産館連絡協議会が実施する都市部から市内物産館や観光スポットを巡回する日帰りバスツアーにおいて、歴史公園鞠智城や豊前街道などを回遊するコースを設定し、歴史遺産を観光資源として活用する。

今後の取り組み予定

◎隈部親永公モニュメント製作

「肥後国衆一揆」の中心人物だった親永公を顕彰する像を設置し、居城の隈部氏館跡（国史跡）等関連遺跡をアピールする。

◎歴史遺産ネットワーク事業

市内に散在する各種文化遺産のネットワーク化。ルートマップやガイドブックの作成、案内標識の整備等。



1.山鹿灯籠踊の香港公演
2.八千代座での小学生の発表会

歴史遺産や文化に関する国際交流

◎山鹿灯籠踊の海外公演

山鹿灯籠踊は女性の頭上に紙製灯籠をのせて舞う踊り。これまでに高校のダンス部や郷土芸能部、保存会などが中国の香港や上海万博をはじめ韓国、オーストラリア等でイベントに出演している。

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

「総合的な学習の時間」を使って郷土について調べ学習する。市立山鹿小学校6年生は学習をもとに八千代座の舞台で発表会を開く。これまでの発表テーマとして、昔話を元にした「長者どんの宝比べ」、「肥後国衆一揆」、鞠智城築城の契機となった「白村江の戦い」などがある。

市立大道小学校は方保田東原遺跡（校区内に所在）について学習し、ポスターを作製して地元図書館等で掲示している。

また、同小は遺跡公園でのキャンドルイベントで全児童による手作りランタンを提供するなどして参加している。

市民に向けた取り組み

◎生涯学習講座

市民を対象に「文化財巡り」「地域探訪コース」「ふるさと案内人養成コース」等の講座を開設し、学芸員や文化財保護委員等による講義や現地見学を実施している。

菊池市【熊本県】

山城名：鞠智城
人口：51,305人（平成23年7月末現在）
面積：276.66km²
市の花：菊
木：桜
鳥：鶯



市の概要

菊池市は、熊本県の北東部に位置し、阿蘇の外輪山を源とする菊池川・合志川の恵みによる緑豊かな自然とともに、古い歴史、伝統、文化を誇る都市です。

地域は、古来、市名に名を残す菊池一族の統治による九州の政治・文化の中心地として栄え、政治・教育・文化面において大きく影響を与えており、現在でも多くの遺跡が各地に残っている。

また、豊かな自然を生かした農林業を基幹産業としており、多様な消費者ニーズに対応した安全・安心・高品質な農産物により、消費者と生産者の信頼が求められる中、特産品センターでは、新鮮な農産物の直売を通して消費者と生産者のつながりを深める取り組みが好評を得ている。

観光は、毎年40万人の観光客が訪れる菊池渓谷や旅情豊かな菊池温泉のほか、各地に桜、コスモス、ホテルなどの四季を彩る自然や菊池一族の歴史と伝統を物語る観光スポット、レジャー施設を有しており、県内外から多くの観光客を集めている。

歴史遺産を活用したまちづくりについて

実施中の取り組み

鞠智城の周知を進める取り組みの一環として、熊本県、山鹿市、菊池市が連携し、歴史公園鞠智城で「鞠智城の日」を開催している。

鞠智城のシンボルである八角形鼓楼の開放をはじめ、古代米収穫体験、

地元物産展、ステージイベント等多くのイベントを開催し、古代を満喫できるイベントとなっている。

今後の取り組み予定

中世から続く街並みや近代和風建築物などの文化資源を九州大学に委託し、調査することで歴史的価値を顕著化し、まちなかにある文化資源をデータとして整理する。講演会やシンポジウムの開催及びパンフレットを作成することで、市民意識の高揚を促す。

また、小中高生を対象とした地域リーダー育成などのワークショップを開催し、市民自らが菊池市の文化資源について掘り起こしを行い、今後のまちづくり活動への利用を推進する。

歴史遺産や文化に関する国際交流

歴史的、文化的につながりの深い東アジア地域（特に韓国、中国）との交流を進めている。

観光客誘致やPRのため韓国釜山市で開催されている国際観光展に出展している。また、菊池観光交流協会では、菊池に住んでいる外国人を対象にした交流会を開催している。

韓国の各機関と連携して韓国映画祭を開催することで国際交流の推進を図る。



菊池在住の外国人の方と菊池農業高校の生徒による「豊稔太鼓」

古代山城等の歴史遺産を活用した学習活動

子どもに対する取り組み

菊池川流域の自治体で作られた肥後古代の森協議会では、夏休みに、地域の歴史文化に親しんでもらうための催し物を開催している。前年度までは菊池川流域の文化遺産を巡るバスツアーを実施した。23年度は座禅体験、木工教室などが体験できるスタンプラリーを実施した。

市内の小学生を対象とした「わんぱく広場」では、史跡を活用した、フィールドアスレチックやクイズをしながらコースを巡り、地域の歴史文化に触れることを目的として実施した。

市民に向けた取り組み

◎ 各種出前講座・歴史探訪受入

肥後古代の森菊池地区事業で、前年度は菊池神社をはじめ、市内の菊池一族ゆかりの史跡、また、文学碑を歩いて巡る事業を実施した。

ここ数年、県外から多くの歴史研究会等が菊池市に訪門され、菊池一族の史跡を中心に市内の史跡の案内説明を実施している。

◎ 菊池遺産認定事業

菊池市内の自然や伝統文化、文化財、自然環境等、産業遺構の中から各種団体から推薦されたものを「菊池遺産」として認定し、次世代に受け継ぎ郷土への愛着を深めてもらう。地域資源を再認識することで地域の誇りにつながるとともに、交流人口の増加や地域の活性化を図る。現在49件を認定している。

その他の古代山城所在自治体の取り組み

三郷町

【奈良県】

山城名：高安城
人口：22,895人
(平成23年8月1日現在)
面積：8.80km²
町の花：ひまわり
木：もみじ

町内各小学校の郷土学習として、文化センター内にある郷土資料室を見学し、民具資料や考古資料について、住民団体のメンバーに聞きながら学ぶ。その他、発掘調査の遺物等を展示する際に見学を行っている。また、三郷町スポーツ少年団では、サマーカーニバルとして、町内の社寺をポイントとしてラリーを実施。さらに、町教育委員会からの依頼という形で、住民団体に町内の歴史遺産について調査を行ってもらい、その内容を資料や展示、講演という形でその他住民に周知させている。

平群町

【奈良県】

山城名：高安城
人口：20,197人
(平成23年5月現在)
面積：23.9km²
町の花：キク
木：カシ

町の補助団体で、昭和45年、国史跡・烏土塚古墳の保存運動に関連して発足した文化財愛護団体「平群史蹟を守る会」が毎月例会研修を実施、7月・12月に主要古墳の整備作業を行い、8月には公開講演会を主催、機関誌『烏兔』も発行し、文化財の重要性と保存の大切さを広めている。

総社市

【岡山県】

山城名：鬼ノ城
人口：67,306人
(平成23年3月31日現在)
面積：212km²
市の花：れんげ
木：もみじ
鳥：タンチョウ

古代山城として初めての本格的な復元整備を実施し、全国的に注目されている鬼城山整備事業の第1期10年間の工事が終了し、城門の復元など主要な遺構の整備が完了したことから、平成23年5月「甦った天空の城鬼ノ城」と題した完成記念シンポジウムを実施。市民に成果を還元するとともに、全国に情報発信を行った。

丸亀市

【香川県】

山城名：城山
人口：110,454人
(平成23年6月1日現在)
面積：111.80km²
市の花：さつき
木：やまもも

丸亀城石の会・丸亀市文化財観光案内会（丸亀城ボランティアガイド）・丸亀市教育委員会が主催して、近世城郭の丸亀城跡で、平成23年度まるがめ文化財の日事業、秘密がいっぱい!? 丸亀城石垣の魅力ミステリーハンター石垣の刻印を探そう!を8月7日（日）に実施した。

市民ボランティアが丸亀城の案内を実施、日曜日の午前中は常時（雨天時は中止）、案内依頼があれば、随時案内を実施している。

糸島市

【福岡県】

山城名：雷山神籠石
人口：100,184人
(平成23年3月末現在)
面積：216.15km²

小中学校の求めに応じ、博物館の学芸員が学校の授業に出向き、古代山城をはじめ、市内にある歴史史跡についての解説を行っている。また、市内に存在する数々の史跡は市の大切な財産という認識にたち、その保存と活用について、市民とともに考えるシンポジウムなどを計画している。

みやこ町

【福岡県】

山城名：御所ヶ谷神籠石
人口：22,271人
(平成22年現在)
面積：151.28km²
町の花：さくら
木：もみじ
鳥：うぐいす

住民との共同運営の形で「みやこ町ふるさと学びの旅講座」を開設し、町内の歴史・文化遺産について学ぶと共に、その成果を「ふるさとガイド」として様々な形で提供・協力発信するボランティアガイドの養成を支援した。（「地域住民との共労による地域振興事業」として22年度県補助事業採択・施行）



つしま蒙古太鼓

「文永の役」で約3万の蒙古軍に立ち向かって護国の花と散った、対馬守護代・宗助国公と八十余騎の状況を表現。

佐須響心会

佐須響心会は、長崎県対馬市厳原町の佐須地区の若者でつくる地域おこしグループ。つしま蒙古太鼓保存会のご指導のもと、蒙古太鼓の練習に取り組み、元寇襲来の古戦場で毎年開催される小茂田浜神社大祭などで演奏をしています。

古代山城サミット

山鹿・菊池大会

実行委員会

《顧問》

氏名	所属
蒲島郁夫	熊本県知事
山本隆生	熊本県教育長
古閑三博	熊本県文化財保護協会会長

《オブザーバー》

氏名	所属
坂本浩	熊本県企画振興部企画課長
内田一成	熊本県土木部道路都市局都市計画課長
小田信也	熊本県教育庁文化課長
村山栄一	熊本県玉名地域振興局長
濱名厚英	熊本県鹿本地域振興局長
富田健治	熊本県菊池地域振興局長

《実行委員会》

役職	氏名	所属
会長	中嶋憲正	山鹿市長
副会長	福村三男	菊池市長
委員	竹下輝幸	山鹿市文化財保護委員会
委員	高山敏朗	菊池市文化財保護委員会
委員	中原恵三知	山鹿市囀託員連合会
委員	針鐵男	菊池市区長協議会
委員	安武幸孝	山鹿市文化協会
委員	宮川健一郎	菊池市文化協会
委員	井口圭祐	山鹿温泉観光協会
委員	服部英治	菊池観光協会
委員	宮崎芳正	鞠智城説明ボランティア会
委員	木村ゆみ子	菊鹿レクリエーション協会
委員	杉本作徳	山鹿市教育委員会教育長
委員	倉原久義	菊池市教育委員会教育長
委員	本多隆文	山鹿市総務部長
委員	野口祐成	菊池市企画部長
監事	倉原謙治	山鹿市教育委員会教育部長
監事	原誠也	菊池市教育委員会教育次長

■主催／古代山城サミット山鹿・菊池大会実行委員会、山鹿市・山鹿市教育委員会、菊池市・菊池市教育委員会 ■共催(順不同)／熊本県、熊本県教育委員会、太宰府市・太宰府市教育委員会、大野城市・大野城市教育委員会、宇美町・宇美町教育委員会、対馬市・対馬市教育委員会、基山町・基山町教育委員会、筑紫野市・筑紫野市教育委員会、高松市・高松市教育委員会、三郷町・三郷町教育委員会、平群町・平群町教育委員会、糸島市・糸島市教育委員会、飯塚市・飯塚市教育委員会、朝倉市・朝倉市教育委員会、久留米市・久留米市教育委員会、みやま市・みやま市教育委員会、行橋市・行橋市教育委員会、みやこ町・みやこ町教育委員会、佐賀市・佐賀市教育委員会、神埼市・神埼市教育委員会、武雄市・武雄市教育委員会、光市・光市教育委員会、上毛町・上毛町教育委員会、坂出市・坂出市教育委員会、丸亀市教育委員会、西条市・西条市教育委員会、今治市・今治市教育委員会 ■後援／文化庁、福岡県教育委員会、長崎県教育委員会、佐賀県教育委員会、九亀市、全国史跡整備市町村協議会、菊池川流域古代文化研究会

熊本県山鹿市・菊池市

鞠智城イメージキャラクター ころう君



この電子書籍は、古代山城サミット山鹿・菊池大会 を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版は発掘調査報告等、他の書籍から引用してください。

鞠智城跡の発掘調査報告は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：古代山城サミット山鹿・菊池大会

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦 2024 年 8 月 29 日